TADOKU JUNIOR　せかいのなぜなに神話　★★★☆☆ ふつう　559語

Why the Sea is Salt

海の水はなぜからい

Florence Holbrook（1902年の本）　原文そのまま　朗読：Alan Mapstone

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　ほしいものを何でもひき出す魔法の石うす。ふたりの女の人がまわしてくれますが、王さまはちっとも休ませてくれず……。



Frothi, king of the Northland, owned some magic millstones. Other millstones grind corn, but these would grind out whatever the owner wished, if he knew how to move them. Frothi tried and tried, but they would not stir.

"Oh, if I could only move the millstones," he cried, "I would grind out so many good things for my people. They should all be happy and rich."

One day King Frothi was told that two strange women were begging at the gate to see him.

"Let them come in," he said, and the were brought before him.

"We have come from a land that is far away," they said.

"What can I do for you?" asked the king.

"We have come to do something for you," answered the women.

"There is only one thing that I wish for," said the king, "and that is to make the magic millstones grind, but you cannot do that."

"Why not?" asked the women. "That is just what we have come to do. That is why we stood at your gate and begged to speak to you."

Then the king was a happy man indeed. "Bring in the millstones," he called. "Quick, quick! Do not wait." The millstones were brought in, and the women asked, "What shall we grind for you?"

"Grind gold and happiness and rest for my people," cried the king gladly.

The women touched the magic millstones, and how they did grind! "Gold and happiness and rest for the people," said the women to one another. "Those are good wishes."

The gold was so bright and yellow that King Frothi could not bear to let it go out of his sight. "Grind more," he said to the women. "Grind faster. Why did you come to my gate if you did not wish to grind?"

"We are so weary," said the women. "Will you not let us rest?"

"You may rest for as long a time as it needs to say 'Frothi,'" cried the king, "and no longer. Now you have rested. Grind away. No one should be weary who is grinding out yellow gold."

"He is a wicked king," said the women. "We will grind for him no more. Mill, grind out hundreds and hundreds of strong warriors to fight Frothi and punish him for his cruel words."

The millstones ground faster and faster. Hundreds of warriors sprang out, and they killed Frothi and all his men.

"Now I shall be king," cried the strongest of the warriors. He put the two women and the magic millstones on a ship to go to a far-away land. "Grind, grind," he called to the women.

"But we are so weary. Please let us rest," they begged.

"Rest? No. Grind on, grind on. Grind salt, if you can grind nothing else."

Night came and the weary women were still grinding. "Will you not let us rest?" they asked.

"No," cried the cruel warrior. "Keep grinding, even if the ship goes to the bottom of the sea." The women ground, and it was not long before the ship really did go to the bottom, and carried the cruel warrior with it. There at the bottom of the sea are the two millstones still grinding salt, for there is no one to say that they must grind no longer. That is why the sea is salt.

北の国の王さまフロディは、魔法の石うすを持っていました。ふつうの石うすは穀物をひきますが、この石うすは、うごかし方を知ってさえいれば、持ち主のほしいものを何でもひき出してくれるのです。フロディは何度もやってみましたが、石うすはぴくりともうごきませんでした。

「ああ、石うすをうごかせさえしたら」と王さまはさけびました。「国の人たちのために、よいものをたくさんひき出してやるのに。みんなを幸せに、ゆたかにしてやれるのに。」

ある日、フロディ王のところに、見なれない女の人がふたり、門のところで会わせてほしいとたのんでいる、という知らせがとどきました。

「中に入れなさい」と王さまが言うと、ふたりは王さまの前につれてこられました。

「わたしたちは、遠い国から来ました」とふたりは言いました。

「何かしてほしいことがあるのかね？」と王さまはたずねました。

「わたしたちは、あなたのために何かしてさしあげようと来たのです」とふたりは答えました。

「わたしのねがいはひとつだけだ」と王さまは言いました。「魔法の石うすをまわすことだが、おまえたちにはできまい。」

「どうしてですか？」とふたりはたずねました。「それこそ、わたしたちがしに来たことです。だから門のところに立って、お話しさせてくださいとたのんだのです。」

それを聞いて、王さまは大よろこびしました。「石うすを持ってこい」と王さまはよびました。「早く、早く！ぐずぐずするな。」石うすが運びこまれると、ふたりはたずねました。「何をひきましょうか。」

「国の人たちのために、金と幸せと休みをひいておくれ」と、王さまはうれしそうにさけびました。

ふたりが魔法の石うすにさわると、石うすはぐんぐんまわりだしました！「国の人たちのために、金と幸せと休みを」とふたりは言いあいました。「よいねがいですね。」

金があまりにぴかぴかと黄色くかがやいていたので、フロディ王は、それを目のとどかないところへやるのががまんできなくなりました。「もっとひけ」と王さまはふたりに言いました。「もっと早くひけ。ひきたくないなら、なぜわたしの門に来たのだ？」

「わたしたち、とてもつかれました」とふたりは言いました。「休ませてくださいませんか。」

「『フロディ』と言うあいだだけ休んでよい。それ以上はだめだ」と王さまはさけびました。「さあ、もう休んだぞ。どんどんひけ。黄色い金をひいている者が、つかれるはずはない。」

「なんて悪い王さまでしょう」とふたりは言いました。「もうこの王さまのためにはひきません。石うすよ、強い兵士を何百人も何百人もひき出しておくれ。フロディとたたかい、ひどい言葉のばつをあたえるように。」

石うすは、どんどん早くまわりました。何百人もの兵士がとび出してきて、フロディと家来たちのいのちをみんなうばってしまいました。

「これからはわたしが王だ」と、兵士の中でいちばん強い男がさけびました。男はふたりの女の人と魔法の石うすを船にのせて、遠い国へ向かいました。「ひけ、ひけ」と男はふたりに言いました。

「でも、わたしたちはとてもつかれています。どうか休ませてください」とふたりはたのみました。

「休むだと？だめだ。ひきつづけろ、ひきつづけろ。ほかに何もひけないなら、塩をひけ。」

夜になっても、つかれたふたりはまだひきつづけていました。「休ませてくださいませんか？」とふたりはたずねました。

「だめだ」と、ひどい兵士はさけびました。「船が海の底にしずんでも、ひきつづけろ。」ふたりがひきつづけると、まもなく船は本当に海の底へしずんでしまい、ひどい兵士もいっしょにしずんでいきました。海の底では、今もふたつの石うすが塩をひきつづけています。もうひかなくてよい、と言う人がだれもいないからです。だから、海の水はからいのです。

たんご と クイズ　海の水はなぜからい

millstones 石うす	**gold** 金	**salt** 塩
ship 船	**king** 王さま	**weary** つかれた
sea 海		

Q1 王さまがさいしょにひかせたものは？

① 塩と石　② 金と幸せと休み　③ パンとミルク

Q2 ふたりがおこったのはどうして？

① つかれても休ませてくれないから　② 金をくれないから　③ 石うすがこわれたから

Q3 海の底で、石うすは今も何をひいている？

① 金　② 兵士　③ 塩

こたえ

Q1 ② 王さまはさいしょ、国の人たちのために金と幸せと休みをひいてほしいとたのみました。

Q2 ① 王さまは「フロディ」と言うあいだしか休ませず、もっとひけ、もっと早くひけと言ったからです。

Q3 ③ 石うすは海の底で今も塩をひきつづけています。止める人がいないので、海の水はからいのです。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #22420（Florence Holbrook、1902年）。パブリックドメイン。
挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。
朗読（Web版）：Alan Mapstone（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは 3 重チェック。人の目でも順次確認しています。